

The New-Tech



遠くへ安全にゆったりと……。旧来の呼び名で言えばトローラーだが、類似形の見当たらない清らかなフォルムに新たな時代の予感が潜む。「SEAWAY Greenline 33」、どこかファンタジックな印象。「EVモード」を持つハイブリッド仕様がイメージリーダーだが、日本初おひろめはノーマル仕様。魅力はこのカタチ、どこか期待に胸膨むではないか。シートライアルコンディションはレッドフラッグ状況ではあったが……、いざご覧あれ。

text: Kenji Yamazaki

photo: Masakatsu Sato

special thanks: OKAZAKI Yachts

<http://okazaki.yachts.co.jp>



SEAWAY Greenline 33



Check on! YouTube
この取材艇のオリジナルムービーがYouTubeで見れる!
PerfectBOAT magazine TVで今すぐチェック!!
PerfectBOAT magazine TV
<http://www.youtube.com/PerfectBOATmagazine>

スロベニアの「SEAWAY Yachts」が放った異色のファンタジー その刮目のEV仕様、世界中から21ものアワードに輝く!



白き冠をかむった連なる頂を遠くにし、近くは深い緑を背景に、透き通る清廉な水の上に浮かぶ姿を思わず夢想する。それほど、ある意味自然と同化する清々とした存在感をこのフネから感じるのだ。3匹のグリーン、ブルー、濃紺のイルカが円を描くシンボルマークを持つ「Greenline 33」。パウデッキのサンベッドには子供たちが座り笑顔を見せる……そんなシーンを描いてしまう。

どこかファンタジーの世界が似合うカタチ。ワイド&ローな、今までに類似のない造形。直立したステム、しっかり段差を持つチャイン。どこかヨットの趣のハル。デザインは「J & J Desine」、JEANNEAUやBENETEAUなどフランス製ヨットを多く手がけている。ウィンドウが多く、グリーンエリアの広いキャビンのルーフは後部にいくほどビームいっぱいに広がり、ピラーでガルネルと結合し、モダンの中にクラシカルな雰囲気を醸し出している。更にルーフはコックピットエンドまで伸びきり、サンシェイド効果のシェルティードコックピットを作り上げている。

ウォークアラウンドのデッキ周りや、乗り降りに便利なコックピッ

トサイドドア等、カスタマーコンシャスな仕掛けがいたるところにある。トランサムが開き解放的なアフトデッキに変身するオープンコックピットプラットフォームなどもその一例。楽しく細やかな工夫が施されている。

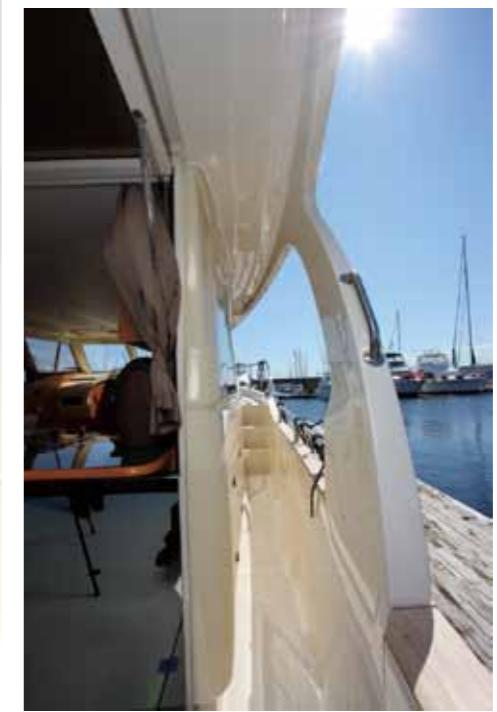
サロンはすぐ右舷にギャレーが用意され、左舷には家庭にあらるような大型冷蔵庫がドンと位置している。コックピットとの間のウィンドウを跳ね上げればサロンとコックピットは一体化し、広々としたエンターテイメントスペースとなり、オープンギャレーが楽しい威力を発揮する。サロン右舷に真っ白なL字型ソファ、対面する2人掛けソファがテーブルを挟んでいる。もちろんテーブルを沈



まるでヨットのキャビンのような使い勝手の良いレイアウト。サロンすぐ右にギャレー、左に大型冷蔵庫と意表をつくレイアウトも、サロンとコックピットのガラスドアを跳ね上げるとオープンギャレーへと一変。パウにはゆとりのナイトスペースが用意され、Vバースにもダブルベッドにも変身する。デザインホテルのような清潔感溢れたシャワー＆トイレルームも嬉しい仕様だ。



トランサムが開き解放的なアートデッキに変身するオープンコックピットフラットフォームは楽しい仕掛けだ。ウォークアラウンドのデッキ周りや、乗り降りに便利なコックピットサイドドア等、カスタマーコンシャスな仕掛けがいたるところにあるのも特筆。



iPadをGPSに使うシンプルで機能的なヘルムと、ワンタッチでヘルムシートになるサロンソファのアイデア。テーブル床下にはボルボD3エンジンが1基搭載される。スタンチューブまで見通しもよく整備性抜群。ウォークアラウンドのサイドデッキにもルーフが伸びる。ビラーはなんとなくクラシカルな雰囲気。良い意味でヨーロピアンテイストだ。



天気晴朗波高しの海象でのシートライアル。2,500rpm 8ノットを超えるとバウがあがり、チョッピーナ波を切り始め安定する。5,000rpmまで回せるが、今回は3,200rpm 12ノットで走行安定性能を確認する。3分割のフロントウインドウ、センターにはワイヤーがない、ここにもあると荒天時視界充実だが、この海象だが驚くほどの乗り心地の柔らかさ、特別にこのフネには緩やかな時間が流れているのだろうか……。実にファンタジックなフネだ。

めればベッドにも早変わりする。この床下にボルボ・コモンレールディーゼルD3、5気筒 2.4L 220ps 1基が収まっている。

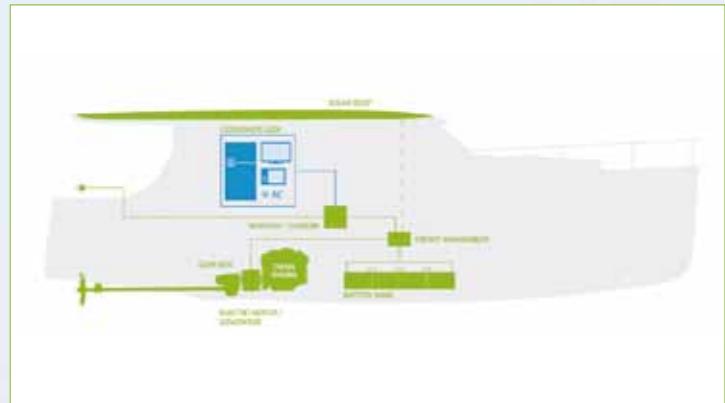
本来ならば空きスペースのバウ側にはリチウムイオンバッテリーが搭載されるはずだが、この試乗艇はハイブリッド仕様ではない。ハイブリッドにコンバートするには可能ではある。それ故にルーフにもソーラーパネルは貼り付けられてはいない。ハイブリッド仕様なら、EV走行で4ノット 20nm、最高速5.5ノットの能力を發揮すると言う。1,398Wのソーラーパネルは船内の電力と充電に寄与する。港内や無音で走行したいエリアにはありがたいEV能力だ。もちろんエミッションゼロ。次回はハイブリッドを体験するとしても、この興味深々のノーマル艇には惹かれるところ多しだ。

サロン右舷前方にヘルムステーションがある。ソファのバウ側がワンタッチでヘルムシートに変身する。コンソールから水平に突き出したステアリングホイール。ボルボのスロットルレバーが右端に位置し、その左にバウとアフトのスラスターーレバーがセットされている。GPSメインモニターはなんとiPadだ。その左下にラダー、水温、速度のマルチメーターがある。アナログメーターは回転計が

スロットルの上に。ほか、水温、電圧等必要最小限の計器が並ぶ。3分割のフロントウインドウにスライド機能を持つサイドウインドウはヘルムからの見通しのよさを感じさせる。

ヘルム脇からバウサイドへ降りると、右舷に清潔感溢れるトイレ&シャワールームがある。更にバウのステートルームはゆとりのロッカースペースを持つ癒しのナイトエリアを演出している。部屋の両サイドから前方をぐるりとスリットウインドウが取り囲み、採光と視界の確保は万全だ。

いざシートライアル。この日のコンディションはおよそこのフネには似合わないレッドフラッグコンディション。北風14m/s。横浜ベイサイドマリーナは赤旗。930rpm 4ノット。1,580rpm 6.2ノット。根岸沖は予想以上に波が立っている。真っ白だ。全長9.99m、全幅3.49m、あまり風の影響を受けてはいない気配を感じながら進む。2,000rpm 7.2ノット。チョッピーナ波の連続に遭遇する。2,500rpm 8ノット、バウが上がりはじめる。回転を上げるにつれそれまでの細やかなローリングもどきが消えうせ、何のストレスもない走行に変化していった。



ハイブリッド仕様のレイアウト。7kWのEVパワー、リチウムイオンバッテリーキャパシティは11.5kWh (Li-Po)。ジェネレーター5kW、48Vチャージ/インバーター35A/3kW、ソーラーパネル1,398W。4つのモードを持ち、Aモードは陸電対応、BはEV走行。最高速5.5ノット、4ノットでレンジ20nm。Cはディーゼルモード。通常のエンジン走行最高速19ノット。Dはアンカーモード。ソーラーからのチャージを含め、バッテリーがダウンしたら自動的にジェネがかかる。EVとエンジンの併用はない。ハリはヨットの仕様に類似。後部にはダブルフィンキールがある。





2,730rpm 9.2ノット。実に波あたりの柔らかいフェアウェイライドな乗り心地が、真っ白な横浜沖で体験できている。ハル後部両舷にダブルフィンキールを持つおかげで船体の安定感はかなりなもの。ただ転舵時の癖として、特に右転舵時にはアウトサイドバンク気味になることを身につけておきたい。

回転を更に上げる。3,000rpm 10ノット。外は大荒れなのに中は至って平穏、それがすばらしい。時折ワイパーを回しウォッシャーをかける仕事が増えるが。3,200rpm 12.0ノット。平静を保っているとは言え、さすがにこの日はこれ以上の走行テストは……。データ上の最高速度は19ノット。MAXレンジは7ノット700nm。横浜から屋久島まで楽に行ける計算だ。EV機能が加わるハイブリッド仕様なら、4～5ノット走行で更に20nmレンジが伸びる計算だ。

それにしても、まるで新しいゾーンのボートが登場してきたと

いえる。なにしろオーストリア近郊、北スロベニア生まれのこの「SEAWAY Greenline」、2008年の登場以来、2013年日本ボート・オブ・ザ・イヤー特別賞受賞を始め、21ものアワードを獲得しているのだから。スタイリングと機能、その存在の優しさ。ファンタジーの世界で海を楽しむ気分、格別かもしれませんぞ。P.B.

SPECIFICATIONS SEAWAY Greenline 33

全長 9.99 m
全幅 3.49 m
喫水 0.70 m
重量 4.80 ton
燃料タンク 500 L
清水タンク 300 L
エンジン VOLVO PENTA D3-220
最高出力 220 hp
問い合わせ先 オカザキヨット
TEL 西宮 0798-32-0202
横浜 045-770-0502
<http://okazaki.yachts.co.jp>



SEAWAY HYBRID LINEUPS			
			
Greenline 33 Hybrid	Greenline 40 Hybrid	Greenline 48 Hybrid	OceanClass 70 Hybrid
全長×全幅 9.99 × 3.49 m Battery capacity @48V 11.5 kWh Electric max speed 5.5 kts Electric sailing range 20 nm Diesel max range @7kts 700 nm	全長×全幅 11.99 × 4.25 m Battery capacity @48V 2 × 11.5 kWh Electric max speed 6 kts Electric sailing range 20 nm Diesel max range @7kts 500 nm	全長×全幅 14.99 × 4.80 m Battery capacity @60V 46 kWh Electric max speed 6 kts Electric sailing range 20 nm Diesel max range @7kts 900 nm	全長×全幅 21.62 × 5.93 m Electric sailing range 20 nm Diesel max range 2,800 nm